

SS-Lecture 菅平高原実験所実習

令和6年2月2日～2月4日 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所にて

筑波大学山岳科学センター 町田 龍一郎先生、藤田 麻里先生にご協力いただき、菅平高原実験所実習を実施しました。コロナ渦で宿泊を伴う研修が中止となっていましたが、4年ぶりに復活することができました。

【2月2日】

講義「実験所と菅平の自然」

「アニマルトラッキング・バードウォッチング」

施設内では「約100年の植生遷移」をみることができます。ススキ草原→アカマツ・シラカバ林（約40年齢）→アカマツ・ミズナラ（約60年齢）→落葉広葉樹林（約85年齢）→ブナ・ミズナラ林（約110年齢）。15haほどの範囲でここまでの遷移が体験できるのは珍しいことのようにです。また、雪の上だからこそ見える動物の情報があります。白い中に落ちている糞、臭くない黄金の糞もあるらしいです。雪に残されたいろいろな動物の足跡からは動物の種類や動きが見えてきます。運がよければ動物に出くわすこともできるそうです。2日目の研修で自然を体験しながら歩くことをとても楽しみに感じさせていただける講義でした。

【2月3日】

実習「アニマルトラッキング・バードウォッチング」

講義「大繁栄を遂げた昆虫類～彼らの成功の秘密？」

実習「ショウジョウバエの観察」「クマムシを観てみよう」

朝食後、バードウォッチングでは餌場に集まる鳥達を双眼鏡で観察。普段見ない美しい鳥たち、愛らしいリスなど自然の生き物の観察に感激の声が多く上がりました。雪道を歩いているアニマルトラッキングではウサギやキツネの足跡を発見。本物の動物を見ることはできなかったものの大自然を体験できたようでした。

午後は氷瀑を目指し雪道散策。途中、植生遷移の変わり目では右にアカマツ、左にミズナラを見ることができ、自然の雄大さを実感できました。動物の足跡を観察しながら氷瀑に到着。見たこともない絶景に思わず声が出てしまう程でした。筑波大学敷地内であり、非公開とのことでしたが貴重な経験ができました。

夜の講義では、昆虫類が繁栄してきた理由を形態やニッチの獲得の観点からお話いただいたあとに、ショウジョウバエを双眼実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡で観察しました。それぞれの顕微鏡の特徴も教えていただき、とても集中して観察をしていました。

【生徒の感想】

・私は生物基礎しか受けなかったのですが町田先生の蝶の発生や、トンボの羽はどこから出来たのかというお話はとても面白くて引き込まれました。生物基礎で学んだ内容と重なる点があつて、学んだ知識と新しい知識がどんどん結びついていく感覚が楽しかったです。アニマルトラッキングでは最初は見分けがつかなかったものが、うさぎやリスの足跡がわかるようになって、今まで何気なく見ていた場所も見方が変わりました。

・私は虫が苦手だったのですが、町田先生の昆虫がどのように翅を獲得したかに関するお話がとても面白く、もっと昆虫や、生き物について学びたいと思うことが出来ました。また、藤田先生に見せて頂いたショウジョウバエの写真も新しい発見ばかりですごく面白かったです。ここでの経験や学んだことはこれからの勉強や、進路選択などにいかしていきたいと思います。



菅平の自然に関する講義



バードウォッチング



アニマルトラッキング・バードウォッチングをしながら、氷瀑へ移動



氷瀑の前で集合写真



ウサギ



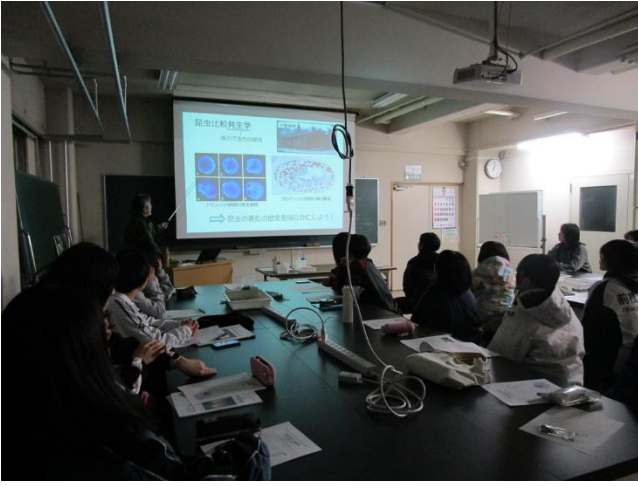
キツネ



キジ



リス



「大繁栄を遂げた昆虫類」に関する講義



シヨウジョウバエ・クマムシの観察実習